

第 38 回「三鷹散策の会」 報告

～ファーレ立川アートをめぐる冒険に行こう～

冬将軍到来の 12/6(金)、三鷹高校 2007 年入学生～中等 10 期生までの保護者総勢 36 名で『ファーレ立川』を散策いたしました。

ファーレ立川とは、イタリア語『FARE(創造する)』に立川の『T』を加え『FARET(ファーレ)』と名付けられ、1994 年立川駅北口側に誕生した街です。

街は森に見立てられ、『世界を写す街』『機能(ファンクション)を美術(フィクション)に』『驚きと発見の街』という 3 つのコンセプトのもと、森に息づく小さな生命(妖精)のように世界中たくさんのアーティストにより街全体がアート化されています。

夜はライトアップもされ、昼夜を通して楽しめそうです。

意外に知らない立川駅…

みなさんもぜひ機会があればアートの世界を歩いてみませんか。

* * *



【オープン・カフェテラス】

この作品は、高さが 5m ある赤い植木鉢です。デパートのオープンカフェテラスとなる予定だった場所に設置されています。隣の換気塔と床のデザインも、作家が色と材料を指定し、全体として一つの石庭のようなイメージになるようにつくられています。隣のモノレールから作品を見下ろすと「日の丸」に見えるところもポイントの一つです。



ジャン＝ピエール・レイノー/フランス 1939
Jean-Pierre Raynaud/France

【会話】 【ベンチ】

女性や花、5匹の蛇や唇が
赤、白、青、紫、緑、黄などの
色とともに楽しくはじけるような
動きをしています。
たまにはゆっくりベンチに座って～
デザインと共に明るい話題で
楽しく花が咲きますね。



ニキ・ド・サンファル/フランス 1930-2002
Niki de Saint Phalle/France



嵐の大野君が座った椅子



【モンティエン・ブンマー（石鐘の庭）】

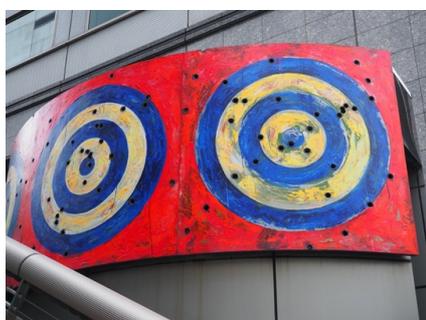
重さ約4キロの真鍮でできた鐘が
約1200個重ねられ、内には黒い
御影石が置かれています。
作者が立川の仕事をする時、
彼の奥さんは死の床にありました。
この作品が祈りの空間に思えます。
設置場所が民間施設敷地内のため
普段は近くまで行けない作品ですが、
今回特別に案内していただきました。



ロベルト・G・ヴィラヌエヴァ/フィリピン 1947-1995
Roberto G. Villanueva/Philippines

パレスホテル立川 中国レストラン「瑞麟」

ファーレ立川アートを鑑賞後、パレスホテル立川に移動。中国レストラン「瑞麟」にて、ランチセットをいただきました。落ち着いた雰囲気の中、4つの円卓に分かれ、卒業された方々や幹事の方々の立川への熱い思い等をお話いただき、とても楽しい一時を過ごしました。



* * *

寒さが身にしみる季節でしたが、ファーレ倶楽部のガイドの方々にご案内いただきながら、街中のふとした空間に立ち並ぶたくさんの作品を見て、触って、アートな世界を堪能できた一日でした。

普段は車で訪れることの多い立川。楽しいまち歩きのおかげで新しい立川の魅力を知ることができました。今回も学年を超えた保護者の方々との交流や散策を楽しみました。

次回は来年初夏に開催予定です。詳細が決まりましたらPTAホームページでお知らせしますので、お気軽にご参加ください。

